

協働のまちづくり支援金 モデル的事業 提案書（新規事業）

団体名：国府町まちづくり協議会

1. モデル的事業実施の背景	
まちづくりの目標・目指す姿など	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を再認識し、暮らしの中で地域への誇りと愛着を育むことで、将来にわたって住み続けたいと思えるまちづくりを実現する。 ・地域の特性を活かし、地域資源を活用することで、新たな出会いや交流をもたらす地域住民相互の絆を深める。 	
まちづくりの課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性として「歴史・文化」が挙げられるものの、その特色がまちづくりに十分に活かされていない。 ・地域の豊かな歴史文化遺産を未来に継承していきたいが、文化財の収蔵庫が適切な状況でない中で、とくに個人所蔵に帰している文化財について散逸・滅失の危機に瀕している。 <p>※以上の課題について、これまでどのように取り組みを進めていくのか国府町まちづくり協議会と地域の各団体とで議論を進め、平成30年度からは、実践目標に「文化財保存・活用 地域の文化財を活かしたまちづくり（誇りづくり）」を加え国府町まちづくり協議会内に「特別委員会 飛騨国府歴史まちづくりネットワーク」を設置して取り組みを進めることとしている。</p>	
2. モデル的事業の内容	
事業名	飛騨国府歴史まちづくり推進事業 ①「飛騨国府アーカイブズ」構築事業 ②「国府遺産コミュニケーター」養成事業
対象、方法など	①「飛騨国府アーカイブズ」構築事業 歴史資料・記録資料を「飛騨国府アーカイブズ」と捉え、これらの現況確認・記録保存をおこなう。その過程では、国府町史編纂事業の成果も継承し活用する。 （平成30年度）各種資料の現況確認調査、地域住民への資料提供の呼びかけ、デジタルカメラによる撮影、収集資料の利用・公開を実現するための検討、先進地域の事例調査 （平成31年度）引き続き、調査および撮影（記録保存作業）、資料目録（メタデータ）作成 収集資料の利用・公開にむけた体制の整備 （平成32年度）収集資料の公開実施、収集資料の利活用を図る取り組み（収集した成果の還元） ②「国府遺産コミュニケーター」養成事業 日本遺産の構成文化財を含む国府地域の歴史文化遺産を《国府遺産》と総体的に捉え、《国府遺産》を子供たちや来訪者に説明案内できるようなガイドを養成する。「コミュニケーター」とは、観光ガイドのスキルに加え、地域の特性である歴史・文化の奥深さや魅力を専門的知識がない人にも分かりやすく伝えられる人材を意味し、歴史・文化について自分で調べて学ぶことのできるスキルの習得をめざす。

	<p>(平成30年度)・説明案内の対象となる史跡・文化財のジャンル毎に、その道の専門家から見学ポイントや魅力などを広い視野のもと詳しく解説して頂く講座を開催。(ガイド人材の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡・文化財が所在する現地でのガイド実践講座も開催。故郷づくり部会主催の日本遺産めぐりツアーや「てんこもりツアー」、「こくふ歴まちネット」主催の親子歴史体験教室などでガイド体験の機会を設ける。 ・史跡・文化財等の説明案内ポイントを網羅したテキストを作成。(各講師による解説・着眼点をテキストに反映させる) ・必要に応じてガイドを供給できる体制の整備。 <p>(平成31年度) テキストを活用したガイド養成講座の実施、ガイドを伴うツアーやコースの開発。</p> <p>(平成32年度) ガイドによる「国府遺産」ツアー・見学希望に対する受け入れ体制の構築</p>
<p>先駆的、効果的な内容</p>	<p>①「飛驒国府アーカイブズ」構築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずはソフト事業として、資料の調査・収集を実施する。地域住民に資料提供を呼びかけることで、身近なところに地域の歴史を物語る貴重な資料が存在していることを感じてもらい、少しでも多くの皆さんに関心を持ってもらう。 ・デジタルアーカイブの技術を用い、市民のみならず国内外の人々が国府地域の歴史や魅力を体感できるしくみを構築する。 <p>②「国府遺産コミュニケーター」養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドには、単なる知識の詰め込みや表面的な理解にとどまらず、自ら調べ学ぶスキルを習得してもらい、自分で調べ学ぶ中で地域の魅力を再発見することへの喜びを実感してもらい、歴史・文化の魅力や地域への誇りをさらに多くの人々に伝えたいという意欲を生み出す。
<p>3. モデル的事業の効果の見込み</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料のデジタル化と公開に向けた権利関係の処理を済ませた上で、例えば TRC-ADEAC のような既存のデジタルアーカイブプラットフォームを利用することで、最小限の労力で公開が実現できる。TRC-ADEAC であれば、すでに高山市に利用実績があるので、運用費用についても最低限度の出費に抑えることが期待できる。 ・国府地域の記録資料の特長として、国府町有線テレビ放送 (KHK) が制作した番組等の映像資料があり、これをアーカイブの目玉として位置づけることができる。 ・歴史研究の面では、岡村利平が編纂にあたった「飛驒史料」や大坪二市の著作が飛驒地域史研究に非常に有用であり、地域史研究に大きく寄与しうる。これにより、地域の魅力がさらに広く認識されることにつながっていくと考えられる。 ・資料のデジタル化により、地域の歴史文化遺産を未来に継承することができる。災害により文化財等に被害が生じた場合に、記録保存したデータが文化財レスキューにおける重要な材料となりうる。 ・地域の魅力を再発見することで、さまざまな局面で新たな価値を創造する可能性が期待される。 ・地域住民に地域への誇りと愛着を育むことで、住み続けたいと思えるまちづくりの実現に近づくことができる。 	